

って、生徒の現実を自己の現実として受けとめることである。生徒を待つのではなく、時間の許すかぎり生徒とともにあり、生徒の生活について認識を深め、共通の話題を見出して、語り合うことである。

教師が自己を語る時、理解できるのは、教師と同じ水準の能力をもった少数の生徒たちであり、大部分の生徒は、教師の懐古談を、教師の自己満足の表現とみているかもしれない。

自己表現のできない生徒との対話は、長時間にわたる苦しい忍耐の後に、ようやく始まるのである。

(4) む す び

以上、高等学校（全日制普通科）の教育課程について、本県の現状から問題点をさぐり、改善の視点を考察した。各教科・科目の具体的な内容は、それぞれの教科の研究にまっところが多い。

人間社会の進歩発展の原動力は、移動することであり、移動が変化をひき起すといわれているが、人も物もめったに移動しない小さな地域社会で、せめて学校教育ぐらひは変化に対して寛容でありたいと念願するしだいである。

高校教育改善の視点

その1 内容の編成

